

ビワの大きさを指標とした 果樹カメムシ類の防除時期

カメムシからビワを守るために行う薬剤防除の回数を減らすため、
果実の大きさを指標に防除の時期を決定する方法を検討しました。

ビワ栽培の難敵



果実袋の上からビワを
加害するカメムシ



吸汁痕が陥没
した被害果

果樹カメムシ類は風雨や虫からビワ果実を
保護するためにかけた果実袋の上から吸汁
し、被害をもたらす



急傾斜地のビワ園
(白破線が地面)
農薬散布作業は
危険を伴い困難

→防除回数を
1回にしたい

果実横径35mm以上で被害増加

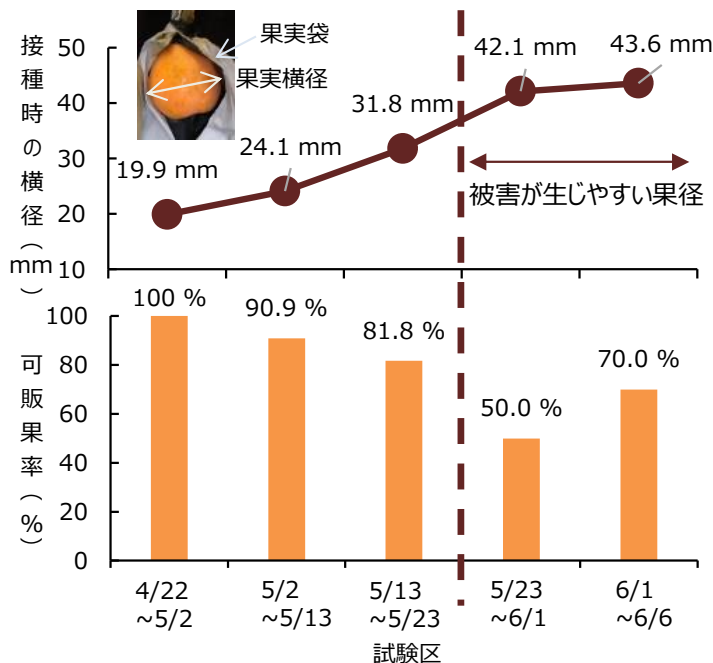


図 カメムシ接種時の横径と収穫時の可販果率
注) 接種方法: チャバネアオカメムシ10頭を10日間網袋に放飼

飛来量が多いと小さい果実でも被害大

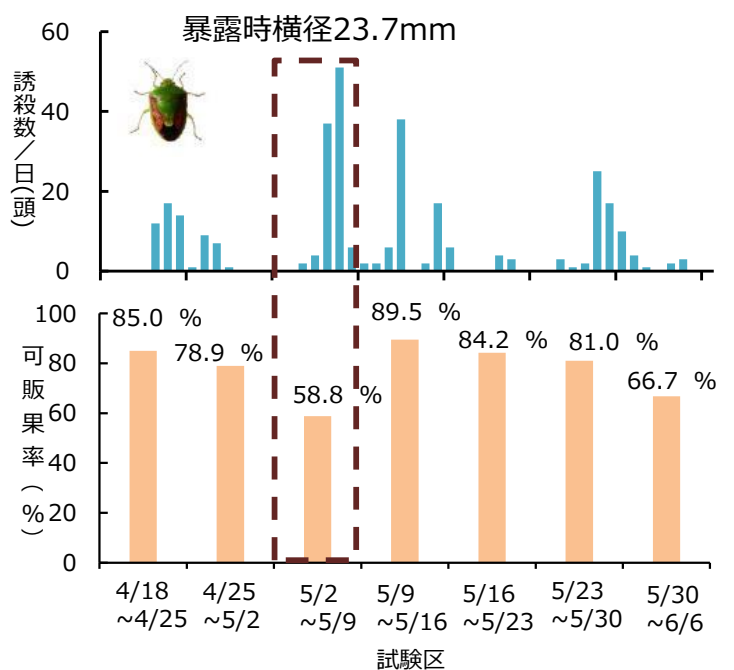


図 暴露時のカメムシの誘殺数と収穫時の可販果率
注) 暴露方法: 網袋を7日間外して野外カメムシにビワ果実を暴露

栽培概要: 「大房」25年生を供試、令和4年4月8日袋掛け、12日網袋で被覆、6月6日収穫

結論

- ・果実横径35mmを目安(概ね5月上旬)に、カメムシ類の防除を1回行う
- ・飛来量が多く4月に防除する場合は、防除回数を増やす

